

経済理論部門は近代経済学と政治経済学の2つの分野から構成されている。近代経済学の分野では、マースハルに代表されるミクロ経済理論とケインズに始まるマクロ経済理論がその学問体系の基礎となっている。経済理論部門の主要な学部講義科目は「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」であり、これらは、学部共通の入門および基礎科目である「経済学入門」、「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」において講義される知識を前提とし、さらに経済理論を専門的に学ぶことを希望する学生を対象に開講される。「ミクロ経済学」の講義内容は、市場均衡の理論を基本としつつ、不確実性、ゲーム理論、マーケットデザインなど多岐にわたる。「マクロ経済学」では、ミクロ経済学理論に基礎付けられたマクロ経済理論について講義される。また、最近の経済理論の展開に沿って種々のテーマを選択的に採り上げて講義する科目として「理論経済学」があり、金融および貨幣的経済に関する理論を講義する科目として「金融経済論」や「貨幣的経済論」がある。

大学院講義科目としては、経済学研究科のコア科目として開講される「上級ミクロ経済学」と「上級マクロ経済学」を基礎として、一般均衡理論、成長論、不確実性、金融理論、意思決定理論、ゲーム理論などの分野における最新の経済理論が「上級理論経済学Ⅰ，Ⅱ」および「数理経済学」の科目において講義される。また、「経済数学Ⅰ，Ⅱ」の科目では、現代の経済理論を理解するのに必須となっている数学的分析手法を教えることを目的としている。

政治経済学分野では、学部講義科目として「政治経済学」、「経済体制論」、「景気循環論」、大学院講義科目として「上級政治経済学Ⅰ，Ⅱ」を開講している。これらの科目では、スミス、リカードをはじめとする古典派経済学、マルクス経済学における経済と社会に関する歴史認識と分析視角を基礎としつつ、現代マルクス派、ポストケインズ派、制度学派などの現代政治経済学の諸学説も射程に入れて、政治経済学の多様な分野にわたる講義内容を提供している。